



ワクチン予報—新しいワクチン「イモバックスポリオ皮下注」について—	1ページ
医療安全管理室からのお知らせ④／今月のイチオシ図書／健康カレンダー〈9月〉	2ページ
糖尿病ワンポイントアドバイス「尿酸値が高いと言われたら…」／「糖尿病教室9月」のお知らせ	3ページ
アレルギー教室のクッキング／外来からのお知らせ／外来診察のご案内	4ページ

ワクチン予報

新しいワクチン「イモバックスポリオ皮下注」について

■ 小児麻痺とも称されるポリオは、ポリオウイルスの感染によって生じる疾患です。

■ 今まで「経口生ポリオワクチン」をポリオの予防接種として使用してきましたが、三重病院では、平成24年9月10日より不活化ポリオワクチン「イモバックスポリオ皮下注」を開始します。適応は「急性灰白髄炎（ポリオ）の予防」で、接種方法は「1回0.5mlずつを3回以上、皮下注射」です（追加免疫接種1回で合計4回）。

■ ポリオウイルスは、口から体内に入って腸管内で増殖し、まれに重篤な麻痺を引き起こします。感染すると、200人に1人の割合で不可逆性の麻痺が主として下肢（太ももから足まで）に現れます。麻痺症状を呈した人の5～10%は、呼吸をするための筋肉が動かなくなり死亡します。

■ ポリオは5歳未満の小児が罹患することから、世界中で乳幼児を対象としたポリオワクチンの予防接種が実施されています。日本においても、1961年より経口生ポリオワクチンの接種が行われており、2000年にはWHO（世界保健機関）から、日本及び西太平洋地域

における野生株によるポリオ根絶が宣言されました。しかし、海外の一部の地域ではいまだにポリオの根絶には至っていないことから、現在でも経口ポリオワクチンの定期接種が実施されています。

■ 経口生ポリオワクチンの接種では極めてまれですが、「ワクチン関連ポリオ麻痺」が、ワクチン接種者や接種者の周辺に発生することが報告されて以来、安全性が問題でした。今回、承認された不活化ポリオワクチンは、3種類のポリオウイルスの病原性を排除して感染力をなくした、安全な単独不活化ワクチンです。海外では、1982年にフランスで発売されて以降、現在まで86か国で承認されており、ポリオ予防の標準的ワクチンと位置づけられています。「イモバックスポリオ皮下注」接種の副反応は、他の不活化ワクチンと同様あるいはそれ以下で、世界中で広く使用されていることが確認されています。

（薬剤科 小池 元）

